

# Annual Report 2013

## 2013年度年次報告

特定非営利活動法人  
日本イラク医療支援ネットワーク  
〒171-0033 東京都豊島区高田3-10-24  
第二大島ビル303 ☎03-6228-0746



### 目次

事務局長よりご挨拶	... 2	会計に関する報告	... 9~10
JIM-NETのあゆみ	... 3	【2013年度決算および2014年度予算】	
組織体制	... 3	【2014年3月末貸借対照表】	
JIM-NET参加団体	... 4	【監査報告書】	
2013年度事業報告	... 5~6		
2014年度事業方針	... 7~8		

## 事務局長よりご挨拶



10年前の6月、イラクで多発する小児がんの子どもたちをどう助けようかと思い悩んでいたときに、ネットワークを立ち上げるのは、それほど大変ではありませんでした。しかし、勢いが去り、イラクは忘れられ、10年も続けることは、結構大変でした。何よりもがんの支援をやるNGOは、他にありません。地味ですし、治療に時間がかかります。

今年2月に、イラクのアルビルで、JIM-NET会議を開催しました。イラクの医師と日本の医師が集まり情報交換し支援内容を詰めていく会議です。10周年ということで、今まで治療の途中で命を落とした子どもたちの写真をプリントし、会場に貼っていました。貼られた写真をながめていると改めて、悔しさがこみあげてきます。そして10年という重みを感じます。会議終了後、それぞれ主治医のドクターが大切に持ち帰りました。私たちがイラクの子どもたちのために格闘したことで、いろいろな財産ができました。JIM-NETの特徴は、チョコ募金のような子どもたちの絵を使った取り組みです。

子どもたちが描いてくれた一枚一枚の絵に、かえって僕たちが勇気づけられ、励まされ、癒されてきました。チョコ募金を思いつくきっかけとなったのはサブリーンちゃんの絵。東日本大震災が起ったとき、折れそうな心を支えてくれたのは、ハウラちゃんの赤い花の絵でした。そして、石巻や福島での復興支援を開始しました。

2012年には、シリア内戦開始後、いち早く難民支援を開始し、ダマスカスにも入りました。

活動は、広がってきています。体力をつけながらも、常に亡くなった子どもたちのことを忘れずに、「子どもたちのいのちを守ること」にしっかりと取り組んでいきたいと思っています。

今年は10周年にちなんだイベントをたくさん準備しています。期待してください。そして是非参加してください。一緒に、あしたのJIM-NETを作りましょう。

特定非営利活動法人

日本イラク医療支援ネットワーク (JIM-NET)

事務局長 佐藤真紀

صاكي ساتو

## JIM-NETのあゆみ

1990年代半ば、イラクの子どもたちの間で、がん・白血病の発症率が急激に増加し始めました。1991年の湾岸戦争時に使用された劣化ウラン弾の放射能の影響だと思われます。しかし、湾岸戦争後の経済制裁による抗がん剤や医療機器の輸入制限のため、適切な治療が受けられずに、多くの子どもたちが、助かるはずの命を失っていきました。2003年のイラク戦争では、米英は再び劣化ウラン弾を使用しました。イラクの病院は破壊され、疲弊し、保健行政も機能不全に陥り、増え続ける小児がん・白血病の子どもたちにとっては危機的状況でした。2004年6月、来日したバスマ産科小児科病院のジャナン医師と日本の支援者たちの間で、子どもたちの窮状を救うための話し合いがもたれ、より効率的で継続的な支援体制の確立をめざし、NGO、市民グループ、日本とイラクの医師たちによりJIM-NETが立ち上げされました。以降、任意団体として7年あまり活動した後、2012年2月1日、特定非営利活動法人（NPO法人）となりました。2011年3月11日に生じた東日本大震災においては、宮城県石巻市を中心に医療支援や仮設風呂の提供を行なうとともに、地震と津波で福島第一原子力発電所の事故が起きた福島県では、放射能の被害を最小限に留めるべく除染や疎開の支援をしました。また2012年4月からは、内戦が激化したシリアから大量の難民が発生したことを受け、難民基金を立ち上げて緊急支援を開始。2013年度は外務省から日本NGO連携無償協力も得て、シリア難民の妊娠支援に取り組みました。

JIM-NETは、イラクの小児がんの子どもたちが、自国できちんと治療を受けられるようになり、先進国並みの生存率になるように支援を続けます。福島での活動も継続し、国内外を問わず放射能汚染から人々を保護するために必要な諸活動を行います。またシリア難民支援も継続していきます。

## 組織体制（2014年3月末現在）

### 【役員】

現役員は以下の通り。

代表	鎌田 實
副代表兼事務局長	佐藤 真紀
理事	池住 義憲
理事	井下 俊
理事	鎌仲 ひとみ
理事	平野 裕二
理事	谷山 博史
監事	栗原 郁

### 【スタッフ】

東京事務所スタッフ 7名(他パート・アルバイト各1名、JIM-NET参加団体からの出向スタッフ1名)  
アルビル事務所スタッフ 1名 イラク人現地スタッフ 4名

### 【サポーター】

ラナサポーター\* 500名  
一般サポーター\*\* 1,274名

\*ラナサポーター：年会費1万円は、うち3千円が会報誌のご送付やイベント参加費免除等のサービスとJIM-NETの運営に充てられるほか、7千円を子どもたちの医療支援費に充当します。

\*\*一般サポーター：年会費3千円は、会報誌のご送付やイベント参加費免除等のサービスとJIM-NETの運営に充当されます。

## JIM-NET参加団体（50音順）

### 【アラブの子どもとなかよくする会】(<http://nakayokusurukai.cocolog-nifty.com/blog/>)

1991年の湾岸戦争後からアラブ地域、とくにイラクの子どもたちへの支援活動を開始、1993年にアラブの子どもとなかよくする会を設立しました。がんの子どもたちへの医療支援のほか、クラフト作り（アファーク・プロジェクト）を通じて患者家族の生活支援を行っています。また現地や日本での子どもの交流も続けています。

### 【カタログハウス基金】(<http://www.cataloghouse.co.jp/>)

カタログハウスが発行するカタログ雑誌「通販生活」では、信頼できる暮らしの道具を厳選して販売するとともに、戦争や災害に苦しむ子どもたちの救援活動に取り組んでいます。チェルノブイリの子どもたちへの支援は2008年まで18年間続けました。現在はドイツ平和村と福島の子ども支援カンパを読者に呼びかけ、イラクの子どもたち救援についてはカタログハウスが会社として取り組んでいます。

### 【子どもの平和と生存のための童話館基金】(<http://www.douwakan.co.jp/group/fund>)

童話館グループは、長崎市にある絵本・こどもの本を専門にあつかう会社です。2001年、童話館の創業20周年記念として、「子どもの平和と生存のための童話館基金」が設立されました。「子どもの平和と生存のための童話館基金」はイラク南部のバスラ子ども病院へ毎月医薬品の支援を行っています。

### 【「サダコ」・虹基金】（「サダコ」・虹基金ブログ <http://sadakoniji.sblo.jp/>）

「サダコ」・虹基金は、原爆の子の像のモデル佐々木禎子ちゃんと同じ病院で過ごした故・大倉記代さんが、サダコちゃんの絵本『想い出のサダコ』出版をきっかけに2006年3月に設立した基金です。この基金は、現代の「サダコ」ともいえるイラクなどで白血病や小児ガンで苦しむ子どもたちを支援することを目的にしています。

### 【スマイルこどもクリニック】(<http://www.geocities.jp/maroji60/1.htm>)

小児救急施設の不足が深刻な社会問題となる中、2001年に開院された24時間診療の小児クリニックです。イラク難民キャンプでの健康診断、子どもたちの手術費の負担など様々な支援を行ってきました。2011年度はマクムール難民キャンプに救急車を寄付しました。現在、JIM-NETへスタッフを出向させる他、毎月事務局の運営費を支援しています。

### 【日本国際ボランティアセンター(JVC)】(<http://www.ngo-jvc.net/>)

JVCは、1980年、カンボジアやラオス、ベトナムでたくさんの難民が生まれた時、「何かできないか」とタイの難民キャンプに駆けつけた日本の若者たちにより誕生しました。現在、アジア、アフリカ、中東、そして日本の震災被災地で活動している国際協力NGOです。現場の声を政府や社会に届ける政策提言・アドボカシーの活動にも力を入れています。

### 【日本チェルノブイリ連帯基金(JCF)】(<http://jcf.ne.jp/>)

JCFは、1991年1月、チェルノブイリ原子力発電所事故被災者への医療支援を目的として設立された認定NPO法人です。信州大学医学部の協力を得て、小児甲状腺がんや小児白血病の診断と治療を、現地医師をサポートする形で行ってきました。2004年からはイラクの小児白血病・小児がんの子ども達への支援を行なっています。また2011年3月11日からは、原発震災の福島の子どもたちを守ろうと被ばく防護対策事業を行っています。

### 【劣化ウラン廃絶キャンペーン(CADU-JP)】(<http://www.cadu-jp.org/contents.html>)

2003年10月、ドイツハンブルグで開催されたウラニウム兵器禁止国際会議の出席者の呼びかけに端を発し、劣化ウラン問題を憂慮する全ての人を開かれたキャンペーンとして「劣化ウラン廃絶キャンペーン」はスタートしました。この地球上で劣化ウランが二度と使用されることがないようにすること、劣化ウランの被害者を援助することを目指します。

## 2013年度事業報告

2013年3月にイラク戦争から10年を迎える、それに関連する一通りのイベントが終わると、イラクへの関心は急激に冷めた。しかしながら、シリア内戦の影響と国政選挙にむけ、宗派対立が激化した。イラク国内は石油産業のインフラには投資が進むが、一般市民の社会サービスには予算もつかず、貧富の差は広がっている。シリアの和平は進まず、死者は15万人、難民も250万人を越え、8月ごろからイラクにも大量に難民が流れた。地域全体が人道的な危機に陥っているが、ニュースも少なく、募金も集まりにくくなっている。加えて円安の影響もあり、資金調達には厳しい環境が予想されたことから、小児がんの支援は薬の供給を10%削減した。同時に、理事会において公的資金を取るかとらないかの議論を始めた。JIM-NETは、これまで政府からの資金を取らずに来たが、JIM-NETが続けてきた小児がんの支援は、イラクの保健省の行政能力や医薬品在庫管理能力等の向上が必至であり、むしろ日本政府が責任を持って関わるべき分野である。「JIM-NETは、資金目的のために新たな事業を立ち上げることはないが、現在実施している事業で、日本政府が責任を持って担うべき案件に関しては、政府とも協議し検討していく」ことになり、結果的には、シリア難民支援のために外務省のNGO連携無償資金援助を得た。

イラク小児がん支援に際し、JIM-NETは信州大学の協力を得てアカデミックなサポートを行ってきた。医師たちの能力は高まり成果が見られている。一方、治癒率は伸び悩み、薬の調達など医療行政に関係した環境はまったくと言っていいほど整備されていない。

シリア難民支援はアルビルでの妊産婦支援を継続。2013年8月に大量のシリア難民がイラク・クルド自治区に流入し20万人を超える、アルビルでも難民キャンプが設置された。外務省のNGO連携無償をうけ、キャンプでの活動を開始し、支援の規模を拡大した。ヨルダンでは「希望の足」プロジェクトを10月に立ち上げた。ヨルダンとシリアの国境は現在閉鎖されているが、けが人や病人は国境を越えてヨルダンの病院に収容される。手足を切断したり神経が麻痺して、リハビリセンターから病院・住居などへ移動できない戦傷者たちに、移動バスによる支援を実施した。

紛争を止めるためのアドボカシーとしては、サダー・カーやセーブ・ザ・チルドレンなどのNGOと協働で取り組んできたが、紛争解決の兆しは見えていない。

福島支援は3年目を迎えた状況も変わってきた。経済優先のために再稼働や原発輸出が再び勢いを増してきているが、現場の汚染状況は深刻である。福島の協力団体も閉塞感の中で内部分裂が始まり、厳しい立場に立たされているところも少なくない。JIM-NETは、放射能の見える化、検診、保養に重点を置いた活動を行った。

### 【主な活動実績】

#### 1) イラク小児がん白血病支援

4病院への医薬品支援、消耗品支援などは10%の予算をカットし計画通り実施できたが、感染症対策を進めるための専門家派遣は関係者と調整がつかずに断念した。13年度は感染症対策に関して主だった活動は出来なかつたが、ナナカリー病院では、2014年2月に国井JCF理事が看護師向けに感染症対策レクチャーを行った。12年度に信州大学で行った医師、看護師、事務長のチーム研修が功を奏したのか、いくつかの改善点が確認された。訪問者の受付を厳しく制限する、針捨てボックスの導入など。感染症対策チームの定期的な打ち合わせは日程調整が難しくあまり行われていないが、担当者ベースでは、勉強会などもしばしば行われ活気が出ている。

#### ●JIM-NET会議

2月に13回目になるJIM-NET会議を例年通りアルビルにて開催。2009年から2012年の急性リンパ性白血病のデーターを整理した。正確なデーターを各病院がとれるようになったが、治療成績は伸び悩んでいる。

#### ●院内学級

昨年度同様に実施。ナナカリー病院では日本人が参加できるので伝えやすい。ワールドカップの最終予選イラクVS日本（6月11日）に合わせ感動募金キャンペーンを実施。その後、イラク代表ゴールキーパー（ヌールサブリ選手）がバグダッドのセントラル病院を慰問し親交を深めた。また、バスラでは、保健局が主催した小児がんのイベントに参加。子どもたちの絵画を展示したり、歌と踊りを披露できた。

#### ●貧困患者支援

バグダッド、バスラでは治安が安定しないこともあり、貧困地域の開発援助はほとんど手が付けられていない。貧富の差が進んでおり、今後も支援は重要である。2012年から毎年、ローカルスタッフが集い、院内学級や患者支援について情報交換する会議を行っている。ナナカリー病院でも、バスラやバグダッドの例を参考に医薬品支援の予算を一部患者支援にまわしたが、医師に直接支援を要求し不平をいう患者家族もあつて対応が出来ず金銭的な支援は中止せざるを得なかった。

## ●海外での治療

イランでの放射線治療：バスラから5名をイランで治療させた。1名はインドでの治療の費用を一部負担。  
ヨルダンでの治療：一昨年度、キングフセインがんセンター（KHCC）へ拠出金を支払わなかつたため2年分を支払った。シリアからの患者が増え、シリアの患者にまわしてほしいとキングフセインがん基金（KHCF）から要請があり150万円をシリア基金に拠出した。

## 2) 難民支援

ヨルダンでの出産費用支援は終了したがアルビルでの妊産婦支援は継続。アルビルでは「10人の妊産婦さん」プロジェクトを実施した。10人の妊産婦を選び、検診をサポートすることで安全に安心して出産してもらうという目的だが、シリア難民の置かれた状況をモニターするという意味も強かった。最終的には14名の妊婦を支援。8月に大量に難民がクルド地区に流れたため、外務省と相談しNGO連携無償資金援助で、アルビルの難民キャンプ内での妊産婦支援を行うことになった。主に難民キャンプと病院を結ぶ交通網の確立と、シリア難民の入院により公立病院のサービスが低下しないよう機材などを供与した。ヨルダンでは「希望の足」プロジェクト実施。ヨルダン-シリア間の国境は閉鎖されているが、戦傷者などの患者は国境を越えて病院に搬送される。手足切断後も手術を必要とし、リハビリセンターと病院・住居間の移動手段がない人々を、ミニバンを使って移送を支援した。4か月で述べ145人搬送。またイラクやヨルダンで治療を受けるシリアから的小児がんの子どもたちの交通費を補助した。

## ●糸ぐるぐる

東日本大震災後に届けられた支援物資の衣類をシリア難民に届けた。現在までに654kg（約4000枚）をヨルダンとイラクの難民に届けた。また福島大学ボランティアセンターの教授と学生をヨルダンへ連れて行き、難民キャンプを視察するとともに、福島に派遣されたヨルダン軍の医療チームと面談して感謝の気持ちを伝えた。

## ●イラク国内避難民支援

1月からファルージャやラマディなどのアンバール地域で激しい戦闘が始まり、40万人を超える国内避難民が発生。アルワリードに避難している25家族に対し、3月に緊急食糧支援を決定した。

## 3) 福島支援プロジェクト

「子どもたちを放射能から守る活動」を継続。福島に寄り添っての発信を心がけた。主な実績は以下の通り。

- ・市民放射能測定所ダイレクトリー完成 ・JCFを通じ郡山の市民団体3a主催者をチャレンジブレイブに視察派遣。
- ・主に福島県における自然エネルギーの普及を目的として、アーユス、APLA、ATJとともに企画してきたカカオクッキープロジェクトにつき、製造元いわき学園、販売元APLAとして昨秋より本格的な取扱開始。
- ・放射能測定実施（飯館村および富成地区） ・健康料理教室（富成地区）

## 4) 政策提言・啓発活動

- ・秘密保護法に関する国際協力NGOの要望書に賛同（2013年11月）
- ・外務大臣宛、ジュネーブ2に関し和平に向けて積極的に努力し人道支援を重視することを要請し、意見交換（2014年1月）

## 5) 広報

活動報告会や展示会などのイベントを開催し、既存支援者の理解深耕と新規支援者の拡大を図った。またグローバルフェスタやWE21ショップでの報告会（戸塚、港北、港南、青葉、旭）、清瀬スローカフェ出店など他団体主催のイベントにも積極的に参加した。ただし自己主催のイベントでは集客力に課題が残る。

## 6) 資金調達

●チョコ募金 「糸ぐるぐる」をテーマに16万個分達成。

## ●READY FOR

- ・石巻の服をシリア難民に届ける「糸ぐるぐるプロジェクト」：346,842円
- ・イラク戦争10年記念イベント「スハッド姉妹招聘プロジェクト」：283,748円
- ・感動募金 ワールドカップにちなんだ感動募金：144,000円

## ●各大使館との関係深耕

クウェート大使館 30万円、カタール大使館 20万円、イラク大使館 15万円  
ヨルダン大使館 6万円、アラブ・チャリティーバザール 40万円

## 7) サポーター

報告会や企画を充実させ、愛されるJIM-NETを目指した。2014年3月末時点での会員数は、  
ラナサポーター500人、一般サポーター1274人。

## 2014年度事業方針

シリア内戦はとどまるところを知らず悪化している。難民も250万人を超えた。イラクでも選挙があり、スンニ派とシーア派の対立が激化し、アンバール州が内戦状態になっているほか、その他の都市でもテロが多発している。中央イラクやシリアの情勢が不安定な中で、難民や避難民を受け入れているクルド自治区の医療の充実は重要である。小児がん支援を中心にシリア難民支援も継続していく。

2015年には国連世界防災会議が仙台で開催される。JIM-NETとしてどうかかわるかは、今後関係団体とともに考えていく。厳しい年になることが予測されるが、2014年6月に、JIM-NETは10周年を迎えるということもあり、10周年記念イベントを盛り上げながら、さらに10年後のJIM-NETの在り方を打ち出していく。

### 【主な活動予定】

#### 1) イラク小児がん白血病支援

10年間の支援の後半は、アカデミックな領域にも踏み込みイラクの医師たちの能力も向上した。今後は、アカデミックな分野では、ヨルダンのキングフセインがんセンター（KHCC）のファリス医師らにかかわってもらう意向である。信州大学、日本の学会ともつないでいく。イラク戦争を支持し復興支援をコミットした日本のODAの責任は大きい。医療行政の技術協力など日本政府の積極的なかかわりを要請し、JIM-NETは、より実践的な支援を患者や家族におこなう。

- ・ 医薬品支援・機材消耗品支援 ⇒ 前年度同等の支援を行うべく努力する。
- ・ 貧困患者支援 ⇒ 貧富の格差が大きく、シリア難民も含めて支援を継続。
- ・ JIM-NETハウス（患者や家族の宿泊施設をかね、感染症対策を徹底したケアセンター）の取り組みの調査を開始する。
- ・ 院内学級

アルビルで化学療法に関する絵本をPENA centerというローカルNGOが出版している。クルド語からアラビア語に翻訳して、ナナカリー病院に通院しているアラブ系の患者や、バグダッド、バスラの患者に配布する予定。またディック・ブルナーの白血病についての絵本があり、PENA centerと共同で翻訳していく。

クルド語、アラビア語併記の絵本を作成する。

- ・ 子どもたちのニュースレター

アルビル、バスラ、バグダッドの子どもたちの様子を紹介するニュースレターを発刊する。

- ・ 子どもたちのケアに関するカンファレンス

細谷先生をイラクに招聘。シリアからも小児がんの子どもたちの支援をしているNGOバスマのスタッフをよび、紛争下でどうやってがんの患者を支援しているのか情報交換し支援に活かす。

- ・ アカデミックな支援→信州大学+KHCC

昨年度、KHCCのファリス医師とつながったが、ビザの都合でJIM-NET会議へ招聘が出来なかつたため、今年度は招聘を実現したい。

#### 2) 難民支援

妊娠婦支援⇒7月以降はN連の助成が終了する。保健省、UNFPAへハンドオーバーする際に、日本政府へも、国際法が定める妊娠婦の保護や、リプロダクティブヘルスライツのあり方も含め提言する。自己資金で、引き続き検診支援やワークショップを月1回程度は行う。「羊ぐるぐる」などのワークショップも行いながら日本社会に訴えていく。

ヨルダンでの「希望の足」は、今後も必要とされるために継続。障がい者を今後どう支援していくか検討していく。また、シリア難民の小児がん患者の支援も行っていく。

「糸ぐるぐる」は、国際協力の概念として定着させることができた。今後もピースボートと組んでヨルダンで衣料を運んでもらいスタディツアーコンダクトする。

#### 3) 福島支援

2014年度は専従を置かず、チョコ募金の収益の福島分を基金にする。チョコ募金への協力を前提に基金を分配する。

ホットスポットファインダーを購入し富成や郡山で測定し、放射能汚染マップを作成し子どもたちを放射能から守る活動に役立てる。

健康料理教室の実施や、富成小の子どもたちのイングリッシュキャンプをサポート。

また昨年はソーラーパネルの取り付けが出来なかつたので、今年度は実施したい。

#### 4) 提言啓発活動

憲法解釈や改憲が叫ばれる中、現場を知るNGOとしてアドボカシーを行う。シリアでは停戦合意と和平実現に尽力するとともに、ODAのあり方などを議論していく。

#### 5) 広報

JIM-NETの10年を振り返りながらイラク・シリア・福島に詳しい専門家・ジャーナリストとJIM-NETの関係者（理事、市民団体、ボランティア）が共にイラク戦争後、東日本大震災後の日本を考える連続講座を実施する。

10周年はチョコ募金のお披露目会と合わせ、11月8日に、11年前に米軍の攻撃で足を負傷したムスタファ君を招聘する予定。集団的自衛権行使容認が議論されている中、イラクで実際に戦争の被害者にあった青年から話を聞く会を設ける。

#### 6) 資金調達

##### ・ワールドカップ感動募金

ワールドカップにちなみ、サッカーの試合を応援して、見て、感動したら募金しようという呼びかけ。  
イラク、シリアの避難民が小児がんの治療が続けられるように応援してもらう。

##### ・チョコ募金

テーマは「いのちの花」とし、本物の花を見ながら描いた絵を使用。種をセットでつけ、花が咲いたらがんの子どもたちのことを思い出してもらう。キーワードは、「お花ぐるぐる」。絵を描いた子どもたちを日本に招聘することも考える。

#### 7) 会員

2014年にJIM-NET創立10周年をむかえる。サポーターに向けたサービスを充実させて、愛されるJIM-NETを目指す。

**JIM-NET 2013年度決算および2014年度予算**

**収益の部**

項目		2013年度 予算	2013年度 決算	2014年度 予算
受取会費	正会員費	75,000	65,000	75,000
	サポーター年会費	9,000,000	8,822,000	9,000,000
	賛助会員年会費	—	10,000	10,000
受取寄付金	一般寄付	10,000,000	14,914,037	10,000,000
	チヨコ募金	80,000,000	84,856,290	84,000,000
	物販寄付(グッズ・書籍等)	600,000	549,847	500,000
	イベント寄付	50,000	452,938	1,000,000
受取拠出金	絵画展寄付	300,000	295,000	250,000
	構成団体拠出金	20,000,000	31,204,050	25,700,000
その他収益	受取助成金(難民妊産婦支援)	0	7,847,310	9,964,553
	受取利息収入	4,000	6,447	6,000
当期収入計		120,029,000	149,022,919	140,505,553

**費用の部**

項目		2013年度 予算	2013年度 決算	2014年度 予算
事業費	人件費	アルビル	880,000	566,070
		バスラ	720,000	713,598
		バグダッド	720,000	750,797
		難民支援	0	115,251
		福島	2,580,000	3,392,367
		チヨコ募金	5,000,000	5,627,729
	事業管理費	アルビル	4,231,000	2,745,899
		バスラ	1,566,000	1,438,228
		バグダッド	720,000	756,349
		アンマン	0	0
事業費	アルビル	難民支援	1,000,000	1,466,787
		福島	900,000	1,612,885
		チヨコ募金	25,500,000	24,950,999
	アルビル	医薬品支援	4,200,000	4,278,560
		機材消耗品	5,000,000	5,079,284
		院内学級支援	200,000	318,716
		患者支援	1,200,000	600,320
		感染症対策	1,030,000	316,816
		看護師派遣費	1,128,000	0
	バスラ	医薬品支援	10,800,000	11,792,807
事業費	バスラ	院内学級支援	750,000	704,734
		医師研修	0	0
		患者支援	4,800,000	4,698,438
		感染症対策	0	0
	バグダッド	医薬品支援	17,000,000	13,596,672
		機材消耗品	600,000	2,107,010
		患者支援	840,000	958,336
		院内学級支援	1,020,000	1,010,242
		感染症対策	0	0
	アンマン	患者支援	2,000,000	1,760,056
事業費	難民	難民支援プロジェクト費	4,000,000	2,435,874
		難民支援プロジェクト費(N連)	0	7,847,310
	福島	福島支援プロジェクト費	6,670,000	1,771,341
		JIM-NET会議	1,600,000	1,161,833
		物販購入(グッズ・書籍等)	300,000	418,161
		アドボカシー経費	1,000,000	1,835,972
		印刷広告宣伝費	1,500,000	1,414,416
		参加団体助成金	300,000	0
		為替差損	0	896,438
	事業費計	109,755,000	109,140,295	125,782,472
管理費	人件費	12,000,000	12,050,923	14,500,000
	通勤費・交通費・国内出張費	1,600,000	596,260	700,000
	海外出張費	1,000,000	1,445,046	1,000,000
	通信・運搬費	900,000	1,120,870	1,150,000
	事務消耗品・備品費	800,000	824,557	1,200,000
	事務所光熱費	230,000	226,675	230,000
	事務所家賃・保険費	1,400,000	1,291,000	1,300,000
	記録・資料費	200,000	53,474	100,000
	支払手数料	400,000	397,748	400,000
	管理諸費	500,000	358,950	500,000
管理費	緊急対応費	1,000,000	0	1,000,000
	管理費計	20,030,000	18,365,503	22,080,000
	支出計	129,785,000	127,505,798	147,882,472
	収支差額	▲ 9,756,000	21,517,121	▲ 7,356,919

前年度期末繰越金	126,182,080
今年度収支差額	21,517,121
今年度期末繰越金	147,699,201

# 貸 借 対 照 表

NPO法人 日本イラク医療支援ネットワーク

[税込] (単位:円)

2014年 3月31日 現在

資 産 の 部		負 債 ・ 正 味 財 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
<b>【流動資産】</b>		<b>【流動負債】</b>	
(現金・預金)		未 払 金	7,751,311
東京事務所 現金	99,952	前 受 金	9,964,653
現地事務所 現金	8,630,295	預 り 金	211,596
普通 預金	149,629,214	源泉税預り金	(197,483)
法人三井住友	(14,792,536)	労働保険預り金	(14,113)
郵便局94945	(11,130,980)	支援準備金	5,000,000
郵便局チヨコ	(108,885,198)	流動負債 計	22,927,560
城南信用金庫	(80,618)	<b>負債の部合計</b>	<b>22,927,560</b>
八十二銀行	(8,192,791)		
N連三井住友	(6,547,091)	<b>正 味 財 産 の 部</b>	
現金・預金 計	158,359,461	前期繰越正味財産額	126,182,080
(その他流動資産)		当期正味財産増減額	21,517,121
未 収 金	12,062,100	正味財産 計	147,699,201
前払 費用	205,200	<b>正味財産の部合計</b>	<b>147,699,201</b>
その他流動資産 計	12,267,300		
流動資産合計	170,626,761		
<b>資産の部合計</b>	<b>170,626,761</b>	<b>負債・正味財産の部合計</b>	<b>170,626,761</b>

## 監 査 報 告 書

INDEPENDENT AUDITOR'S REPORT

特定非営利活動法人 日本イラク医療支援ネットワーク (JIM-NET) の 2013 年度決算 (2013 年 4 月 1 日 - 2014 年 3 月 31 日) について、監査の結果、事業は適正に実施され、また活動計算書および貸借対照表は、一般に公正妥当と認められる会計原則に基づいて作成されていることを認める。

We have audited the financial statement of NPO JIM-NET as of March 2014 and acknowledged that revenue and expenditures for the Fiscal Year 2013 in the activity statement and balance sheet were based on generally accepted accounting principles.

日付: 2014年5月22日

監事: 栗原郁

